京城新報

●新聞料 ▲一部二錢 ▲一ヶ月前金五十錢 ●三ヶ月前金 ▲郵稅一月金拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢 ▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 十月十四日
發行兼編輯人 印刷人 山下英[illegible]
京城西署西小門通
發行所 京城新報社 電話六六三

京城新報

消費と精力

武陽山人

飽食暖衣を根底より徳義に反せるものなりと斷定せる道學者の說の誤れるは今更云ふまでもなきことにして、社會の進步に供ふ生活程度の上進は寧ろ悅ぶべき現象なりとす、生產せられたるものは終に消費せられざるべからざるが故に文化の發達せる社會の消費が多種多樣なるべきは當然なり、然れども生產の目的が消費しあるが如く消費も亦直接間接に將來の生產を助くるものならざるべからず、將來の生產に寸毫の効果なきものは消費と云はんよりは寧ろ之れを破壞と唱ふべし、破壞は獨り道義に反するのみならず國家を亡ぼす斷じて許すべからざるなり、破壞に近き消費も亦國家の盛衰に關すること甚だ大なるが故に單に一箇の道德論として看過すべきにあらず。

所謂破壞及び破壞に近き消費は消費の競爭に勝し場合に於て屢々吾人の實見する所なり、自己以上の生活狀態を見て之れに達せんことを希ふは人情の自然にして階級制度に於ける制裁を脫して四民平等の思想に滿める國民にありては殊に然り、消費の競爭は決して排斥すべきものにあらず、之れに伴ふに精力と膨脹とを以つてせば茲に生產の活動を生じ社會の進步發達となるべし、吾人の歡迎する所なれども精力と膨脹とを伴はざる實力なき競爭は斷じて不可なり、所謂破壞及び破壞に近き消費の行はるゝは即ち此時なり、吾人は吾居留地に於て此の如き實力なき消費の競爭行はるゝことなきやを憂ふ。

人は麵麭のみによりて生活し得るものにあらずして適宜の享樂が必要なることは云ふ迄もなきことなれども、吾居留地一般の享樂手段は野鄙的破壞的なりと云ふに躊躇せざるなり、俸給に因つて生活をなすものは海外手當に基く收入增加に狂喜し、新開地の遺利多きに因つて少しく產をなしたるものは黃金の色に醉ひ、上下擧つて奢侈淫靡の惡風に感染せられ、色を漁し、酒に亂れ、衣を美にし、居を壯にし、尙其及ばざらんを恐るゝに似たり、彼等は之れに因つて將來活動すべき精力を得るにあらず却つて之れを減殺す、之を財物の破壞と云ふは否か。蓋し奢侈放逸は今の所謂紳士の常態にして輕羅錦繡は貴婦人淑女の理想なり生命なり獨り吾居留地の士女を責むる聊か酷なるに似たれども、奢侈淫靡の度他に比して更らに甚しきを免る能はざるを奈何せん、思ふに萬般の施設完からず、社會制裁の薄弱にして、道德の標準低き新開地斯かる惡風の吹き荒さむは避くべからざる勢とも云ふべけれど、其韓國經營に影響する輕からざるを信ずるが故に各自の猛省を促すこと甚だ切なり、讀者記臆せよ、我韓國經營は今更其序幕を開きたるのみ、小成に安んじて成效を氣取るべき秋にあらざるなり、官民共に其精力を充實して經營の幕を進めざるべからず。

吾人は重ねて茲に切言す、消費の增加生活程度の上進は社會發達の結果にして又其源因たるべきを以て之れを悅ぶに吝ならざれども、活動の精力を伴はざる消費は即ち破壞にして毫も社會を益せざるのみならず、其元氣を消磨すること甚だしきを以て社會發達の障碍者として之れを排斥せざるべからず吾人の居留地觀杞憂に終らば蓋し幸甚なり

一年雜記

對星樓山人

風說の戰記

如何に猜忌の世の中とは申せ、又風說の製造地とは云ひ乍ら、根も無き惡聲を立てるとは、驚き入りたる社會なり、我儕は半島南北の旅行より歸來して間もなく閑人の間に落伍した、時しも東京まで行くべく出立したが、先づ來襲したるものは風說である。

●●●風說群、曰く彼は統監政治に不平である、彼は韓人の利益を庇護せんが爲めに統監反對の東京勢原に何事か劃策する處ありて東京まで行つたのである、我輩はそんなに政●●權狂でないのだ。

風說群、曰く彼は韓國政府の密託を受けて銀行設置のために東京運動に出懸けたのであると、目賀田氏の監視の下に稅關の脫稅者ありと云ふのと均しく、隨分迂濶なる風說子であつた、彼等は斯る風說を相手として少からぬ探情費を勞費するのである。

煙の立つ處には火の氣がある處に必しも煙は立たぬのである、風說群は斯る無益の惡聲を吹いて居つたが其の內結論は茫漠で風說群の煙の如く化し去るは不思議である、斯くは奇警なる夜襲が行はれて、曰く彼は韓宮廷の內旨を受けて東京に於て新聞社を創設すべく五萬圓を攜て出發したりと、風說群は五萬圓で東京新聞が出來ると思ふ位の無識者である、我儕は山妻と愛兒を携へて亡母の墓を奠するため故山に歸つた、然し乍ら彼等は我等は五萬圓を持ち去りて東京まで出發した如くに吹聽した。

茲に至りて統監政治の下に於て我儕は恰も●●●●●●明治初代の謀叛人同樣の待遇を受けて居る、幸に南州翁や神風連や、江藤先生の如き巨魁が無いので爆發せざるかの如き狀態である、故山より歸韓して重ねて漢城の風塵に沒入すると以上の風說群が襲撃したる戰場は何でもない、爾來風說戰記は滿面白くなつた、恰かもヘーグ密使事件で半島未曾有の政變が起つた、此大波瀾に際して風說群のため大負傷を被むれるものもあつた、就中我儕は二三の奸黨と相約してヘーグ密使料の調金運動を爲したとか流言した●大馬鹿者も聞いた、若しも眞面目になつて名●譽損害の賠償告訴でもしたなれば、今頃は●巨富の豪家となつて居るであらふ。

最早祖國の爲めに多少の貢獻をしたるものも、此二三十年間殖民地の發達に盡力したものは、一人として此惡習のために失望し迷惑を受けざるはない、我輩は其一年間に於ける私人日記を公にしたのは聊か風敎を稗益する考で記錄したのである、先日も歐州列强に密使を送くるため夜中韓婦人の來訪を受けたとかの臆說を吹いて我儕の友人に忠告したものもあつた、蓋し此風說群と申す一種のピンデ(惡虫)は今尙ほ朝鮮人より傳授されつゝある韓半島の外交慣用手段を蹈しかつて居るのである。

仁川本年の貿易狀況（續）

▲七月　七月は例年夏季閑散の時季なるに加て仁川再度大火災及密使事件に尋て韓國民擾の爲人氣沈靜して商況の沈衰を來せしも一時的の現象に止り憂慮せし程の影響を見ざりしも一般商況の不振に連れ綿糸綿布類の姿にて賣行鈍く相場も五十錢方下落し其他洋金巾和木綿麥粉及び砂糖等も甚だ不振にして相場は稍下落に傾き綿布及び綿糸を初め絹毛製品金屬品其他諸雜貨共輸入減少し總額六十六萬四十餘圓前月に比し約十萬圓を減じたり輸出は精白米及玄米とも前月來引續き內地相場の好況なる爲め日本へ輸出も盛に行はれ大連輸出も甚だ維持せられて未曾有の盛況を示し其額約六万圓に上れり輸出の增加と共に當港の在米次第に減少し各地より還米も多からず相場は前月と比し二三十錢方騰貴し取引稍鈍狀を來せり牛皮及大豆は地方よりの出廻りなく取引殆んど杜絕の姿にて輸出總高は二十二万餘圓前月に比し十四万四十餘圓を減少せり

▲八月　八月は韓兵解散にて市況幾分か引立來りしも韓內地に於ける民擾は出穀入路に多大の障害を與ふべしと憂慮せられたるに拘はらず中には暴徒の掠奪を避くる爲め當地への廻着を促し米穀の出廻りも相變らず弗々有之麥の入荷も稍盛んにして取引は活潑と云ふ程にはあらざりしも相應の額に達し未た豫想の影響を受くるに至らず輸出は前月の好況に比しては大に寂寞の感ありしも大連向輸出は引續き相應に行はれ約六万圓の輸出を見たり牛皮は品薄の爲め相場上向き輸出捗々しからず輸出品の全部を通して其額十五万四千餘圓前月に比し六万六千餘圓を減少せり輸入は百十四万七千餘圓にして金巾及木綿、綿糸及打綿、絹布、毛織物、交織物其他衣服及び附屬品等輸入は前月に數倍するに至りしも綿絲は產地高の爲め高値を唱へ金巾、木綿、麥粉、砂糖等は時節柄捗々しき賣口立たず一般の商勢は輸出入とも不振の域を脫せざりき（未完）

十月中の京城商況（續）

品名		單位	價格	價格
浪板	亞鉛板八尺	枚	一、三三〇	一、三三〇
同	七尺		一、三三〇	一、二三〇
平板	亞鉛引三尺	同	一、一五〇	一、一五〇
同	長六尺			
針金	亞鉛引八四斤入	丸	八、四〇〇	七、九〇〇
同	八番線	同	八、八〇〇	八、五〇〇
同	十番線	丸	九、六〇〇	九、三〇〇
同	十二番線	打	三、五〇〇	三、五〇〇
土工用	片ツルハシ	同	一五、五〇〇	一五、五〇〇
同	兩ツルベシ	百斤	七、六五〇	八、〇〇〇
鐵	（平均）	枚	八、〇〇〇	九、七〇〇
鐵板	（厚四尺もの一分）	同	七、五〇〇	七、五〇〇
鐵板	（厚七厘四尺もの）	東	七、八〇〇	七、八〇〇
同	（五枚もの）	同	七、五〇〇	七、五〇〇
同	（六枚もの）	同	七、六〇〇	七、六〇〇
同	（七枚もの）	同	七、六〇〇	七、六〇〇
同	（八枚もの）	個	三、五〇〇	三、五〇〇
牛鍋	（七寸）	同	一五、五〇〇	一五、五〇〇
同	（八寸）	同	三、一〇〇	三、一〇〇
同	（六寸）	同	八、〇〇〇	八、〇〇〇
同	（五寸）	同	一六、〇〇〇	一六、〇〇〇
燒鍋	（八寸）	同	五、八五〇	五、八五〇
同	（六寸）	同	一、三五〇	一、三五〇
鑄物火鉢	福壽（尺形）	同	一、一五〇	一、一五〇
同	同（九寸）	同	一、三〇〇	一、三〇〇
同	讃岐（尺形）	組	三〇、五〇〇	三〇、五〇〇
馬具極上等	四號附屬品共	同	三三、五〇〇	三三、五〇〇
同	三號	同	一〇、五〇〇	一〇、五〇〇
同	同（並）			

△紙類之部（土佐紙會社）

品名		單位	價格	價格
半紙	（改良生漉上）	個	二六、〇〇〇	二六、〇〇〇
同	（四丸入上）	同	三一、〇〇〇	三一、〇〇〇
同	（同中）	同	一六、八〇〇	一六、八〇〇
同	（同下）	同	二五、二〇〇	二五、二〇〇
美濃紙	改良二丸入上	同	三三、二〇〇	三三、二〇〇
同	同中	同	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
同	同下			
同	四ツ判			
洋紙	六ロゴス	磅	一三五	一三五
神戶	方角紙	同	〇九五	〇九五

△木材之部（伊東松支店）

品名		單位	價格	價格
杉大角	（尺角）	本	二、八〇〇	二、八〇〇
松大角	（同）	同	一〇、五〇〇	一〇、五〇〇
檜大角	（同）	同	三一、〇〇〇	三一、〇〇〇
杉小角		本	六五〇	六五〇
杉四分板		坪	一、一七〇	一、一七〇
同六分板	（無節）	同	一、三六〇	一、三六〇
松大分板	（大キズ）	同	一、三〇〇	一、三〇〇
杉四分	（中キズ）	同	一、七〇〇	一、七〇〇
杉二間	（小キズ）	枚	六〇〇	六〇〇
同	（垂木）	同	三四〇	三四〇
同		同	三〇〇	三〇〇
松二間		本	二五〇	二五〇
同丈	（同）	同	一、八〇〇	一、八〇〇
同間	（同）	同	二〇〇	二〇〇

△ペイント類之部（三田政商店）

小說　絃のみだれ（八）

永井櫻園

清之助の人氣は大層なもので、語り了つてからも暫時は渠が噂で持切つて居る。

『さうだ、先づ酒屋をあの位に語るものは今日の女義太では外に無いだらう、先代の綾之助より女振が少し落ちるかも知れないが、語振は旨くても拙くは無い、あれで二三ヶ月も經たうもんなら、無論看板を掲げて非常な人氣になるだらう。』

と、一人が言へば、又一人が



『どうして、容貌も綾之助よりは脊もスラリとして居る、顏も細長くて遙に美人です。そりやアまあ宜いとして、一体清之助は何處の者でせう、上方からでも上つて來たんでせうか。』

と、問ひ掛ければ、

『さあ、私も然う思つてるのです、矢張上方からでも上つて來たんでせうね。』

と、曖昧な返辭をする。すると又一人が

『けれども清糸の一座で、清之助と云ふ所から考へると、どうも清糸の弟子のやうにも思はれますが、若も清糸の弟子であるのなら、無論東京の者でせう。』

『なるほど、其も然うですね。』

云ふ時、其橫の方に双子の袢天を着た、四十五六の職人風の客が居つて、突然

『清之助は生粹の江戸ッ兒ですよ、私ア丁度一軒置て隣のもんですが、矢張清糸の弟子でがさア。』

と、知らねヤア言つて聞かさうと言ひたげに、鼻をピクッカせて辭を挾んだ、一同は言合はしたやうに口を噤むだが、先の程から卷烟を喫しながら、一同の話を默つて聞いて居た眉目俊秀の靑年があつたが、突然辭を出して

『へエ、東京ッ兒ですかね、シテ家は何處でせうか。』

と、問ねかけた、職人風の男は得たりとばかり、茶を注いでグッと喉を濕した後

『家はれ前さん、ツイ其處の明舟町でさア明舟町の八軒長家の東の端から二軒目の家で、小ぽけな道具屋でさア……エイ〳〵古道具屋です。』

すると、靑年はやゝ驚き顏で

『では、若か其家は黑川勇五郎とは言ひませんか。』

と、辭忙しく問ふ、職人は怪訝な顏で靑年の顏を打眺めつゝ

『れ前さん能く御存だね、あの近所ですかい、眞箇黑川勇五郎さと云ひますよ。』

『では、清之助の本名は確かた綾と云ふでせう。』

『ねゝ其通り、其通り。』

『すると、其の勇五郎と云ふのは隨分な左利でせう。』

『ねゝ、何と言ひなすつた。』

『なに、酒を飮む人だらうと聞たんです。』

『あ、然うでしたか、仰る通り酒が好きでして、三百六十五日、烏の啼かん日はあつても勇五郎さんが酒を飮まない日は無い位なもんでさア、それに飮むと癖の惡い酒で、どうしても怒らないと納らないんですから、清之助も隨分苦勞を致ましたよ。』

『へね、すると彼古道具屋の娘でしたか。』

と、靑年は何か思ひ浮べたやう、其まゝ口を噤むで暫くは打沈むで居つた。

京城新報

輸出税の撤廢は施政改善の一なり

韓國政務の弊竇は、立法、司法、行政の各方面に亘りて其禍害を逞ふせざるなきも、就中其弊害の尤も大にして其禍根の尤も深きものは税政の不當亂雜なるにあり、然り而して今尚自國生産の輸出貿易品に關税を賦課する如きは、正しく税政に關する一種の惡制度なり。

輸出を奬勵保護して産業の發達を計り、以て國富民力の増進に資するは古今に通ずる邦家經濟の要義なり、韓國は此要義に背反し、清國傳來の式風を襲踏して自國輸出の貿易品に關税の負擔を課し、當該商工者に煩擔なる手數と係累を與へ、其結果貿易の進歩を害し産業の發達を妨げ民力の増進を阻て顧るなきに至ては頑迷不覺も亦甚しと云ふべく、韓國幾多の政式中吾人は輸出關税の存在を以て速に改癈を要すべき重要案件の一なりと信ず。

惟ふに韓國の施政改善が統監政務の主要部分に屬することは、三十八年協約の條項に明示するところ、又統監自ら天下に向て標榜し來れるところなり、果して然りとせば輸出税を撤廢して税政上の弊禍を除き、産業保護の途を開くは統監政務の一部にして其職責上當然に遂行すべき仕業なりと云はざるを得ず。

回顧するに、輸出税撤廢の意見は三十八年中在韓日本人商業會議所聯合會始めて之を發表し、爾後民間有識の者屢々此議を唱導し來り、今年の聯合會に於ても亦同一の意見を議決して之を當局に提出せり、斯の如くにして民間の團体若しくは有志は本問題の實行に就て、當局の反省を促したること實に一再に止まらざりしなり、而も之に對する當局の答辨なるものは、常に財源を失ふの一点を以て本議の實行を難ずるの理由となせるが如し、蓋し財源欠乏なる一句は近時我政府者が民議を排するの口實として必ず使用するの常套語なり、帝國内地の經濟問題に於ては、財源欠乏の爲め其實行を期し能はざる場合往々之なきにあらざるも韓國輸出税撤廢の問題に關し同一の筆法を以て其決行を拒むに至ては吾人の決して首肯する能はざる所なり、韓國輸出税は漸く四十万圓に過ぎず、四十萬圓の歳入減額何かあらん、若し夫れ僅に四十万圓の財源を失ふが爲めに韓國の財政を維持するの途なしと云はば、是明かに當局自ら財政調理の技能、能力なきを告白するに等し、四十萬圓の財源を保留するか爲に産業の發展を害し貿易の進暢を妨ぐるは古來の惡政を繼續するの要ありとせば税政上に於ける其他各般の弊竇は到底一も改善すること能はざるべし、施政改善の目的は遂に實效を見るの期なきに至らん、輸出税の撤廢は其實行手續に於て最も簡易の事業なり、輸出貿易品に對し一切の關税を免除すとの一片の法令を發布すれは足れり、外交に何等の故障を來すの恐なく、内外人に聊かの不利損害を及ぼすの患なく、又他の行政改善の如く實行上に煩雜なる手數を要することなし、統監政治の創設以來施政改善の實を擧ぐるに於て最も容易に最も迅速に決行し得べきものは實に輸出税撤廢の一事たるなり、輸出税撤廢は施政改善の第一著として撰擇すべき好事業たるなり、而るに當局者にして今日に至りて何決するところなく、些々たる財源の欠陷を口實として斷行の意向を示さずば徒らに内外の人士をして當局の胸中果して施政改善の誠意なるや否やを疑はしむるの結果を來さんのみ、吾人は統監の爲に切に之を遺憾とす、

東京電報

▲大演習の勅語（十九日發）

大演習に關し天皇陛下より勅語を賜ふ其の大意は左の如し

講評は今參謀總長をしてこれを爲さしめたり之れを要するに各大隊の戰闘動作勤務は實戰の經驗により特に進歩せるを認め朕これを嘉し然れども近世軍事の進運は決して一時の偸安を許さず爾等益奮勵し他日の大成を期せよ

▲軍費調停（十九日發）

陸海兩大臣は新税の削減に對し不滿の念を懷き山縣公山本伯に運動を試むる所あり依て目下陸海軍の要求は多大なる限り閣議中にて圓滿なる解決を見るに至るべしといふ

各地電報

▲北韓に暴徒蜂起す

十六日夜北青より西北約十三里「アンヘイシャ」に暴徒蜂起し同舍長殺害せらる北青守備隊より將校以下出張警部以下五名本日出張す賊數は五十（十九日咸興發）

雜報

各地暴徒の状況

△石柱面の衝突　十五日午前津東面青屯川に暴徒百八十餘名現はれたり當時行軍中の我軍隊は直ちに前進し東道面石柱院（長端より四里）に於て衝突す賊は死屍三を遺棄して西北方に逃竄せり

△馬山面の小賊　十三日金浦邑馬山面内へ兇器を携帶せる暴徒八名來襲し物品を掠奪し去れり

△陽智の不穩　陽智附近にある暴徒は曩に捕はれたる首魁任國汝の復仇を圖ると稱し集合し秋溪及び邑内を襲はんとするの模様ありて形勢甚だ不穩なり

△牙山に賊來襲　十六日午前三時半暴徒約七十名牙山に來襲し派所を砲擊して巡檢一名に重傷を負はせ制帽及び制服を奪ひ南方に逃走せり

▲藍浦の賊徒　忠清南道藍浦郡深田面、佛□面地方に去る十五日暴徒三十名内外入り込みたり

▲全州の賊（邦人慘死）　去る十四日午後十時半暴徒百餘名信德面參禮に來襲し發砲放火の後日人一名を慘殺せり邦人の損害は一萬圓に及べりと

▲平山の賊潰走（屍体三十遺棄）　去る八日黄海道平山郡麟山面楓洞に暴徒約五百名集合の情報あり我警察隊は苦闘の後引揚げ更らに軍隊により十二日未明之れを擊退す賊は死体三十余百七十圓を遺棄して逃走せり

仁川局管内の暴徒

黄海道瓮津郵便取扱所に去十三日午前十時暴徒十七名來襲し同所の内外及器物を破壞し郡守を毆打して重傷を負はせ尚大擧して再來し各官衙を襲擊せんと宣言し午後五時頃引揚げたり

基督教徒の自白

過般江華島に於ける暴動の際當地に在る耶蘇教徒之れに加はり我討伐隊に向ひ反抗したりとのことは當時專ら風評せられ且つ一般の認むる所なりしか當地の宣教師は極力之を否認したるに今回教徒中に勢力ある許眞一、盧惇昌の兩名は同教徒が江華島暴徒に加りたる旨同島にある憲兵分遣隊にて自白したる由にて目下取調中なりと云ふ

奉化方面の暴徒

十一月十日午後一時奉化賊襲の急報榮川に達し本日を以て河村特務曹長は兵十五名を率ひ直路奉化に急行し別に熊澤少尉も一隊を率ひて匪徒來往の經路を迂回急行す河村隊は午後七時奉化に到着す郡衙及附屬建築物税務分署其他邑内の民家は既に燒燼し頗る慘状を極む此時僅かに邑民の一人を發見し賊は奈陽面地方に逃走せしを聞き直に追擊に移り徹夜急行す縣洞（奉化を距る三里）の處に於て賊の見張人二名を捕へ其大部分二百名は上東面鳳捿洞を經て竹時洞に宿泊の豫定なるを知り前進續行翌日午前七時目的地に着し包圍突擊を加へ戰闘約二時間賊は右嶺を越へ三陟郡境太白山中に潰亂遁走せり現場の首魁は邊鶴基と稱し自ら嶺左倡義將と唱へつゝあり燒失家屋は諸官衙の外民家二十九戸又巡查揭水源三外三名は曾て八月中賊徒の襲擊を受け所持品全部を燒かれ今又其全部を奪取者は燒却せられたり

驪州方面の不穩

京畿道揚根驪州間の沿岸附近は從來匪徒出沒地なりしが近來備守隊及憲兵隊等との配備行き届きたる爲め漸く平穩に歸するに至れるより衛警務分遣所の如きも近々配置の筈なりと云ふ

平安道不穩の兆あり

平安道にては從來不穩の行動をなす者を見ざりしに去る五日碧潼西門へ解散兵の檄文を各所に貼附せしものあり同地在留邦人は爲に避難準備中なりと

楊根地方の状況

步兵第五十一聯隊第十一中隊の中特務曹長松田菊太郎以下二十名守備として揚根邑内に配備せられ同地警務分派所内に屯營し同時に郵便取扱所事務開始せられたるが同隊は不日引揚の命令あるべき筈なりと

十一月十日揚根憲兵分遣所長憲兵特務曹長大槻吉太郎以下十六名到着し同邑内に駐屯せり、揚根守備隊として本月十日步兵第五十二聯隊第二中隊赤倉大尉は楊根郡二水洞に配置せられ内中村少尉の率ゆる一個小隊を同十一日砥平郡守備として配置せられたり、揚根より砥平、高安、京城間（六里）は毎日連絡を取り且揚根より廣州間（八里）郵便遞送線路の護衛をなしつゝあるも此線路を憲兵の連絡線路に變更せば便利なることを揚根郵便取扱所長へ交渉中なり

賊將を捕虜とす

先頭暴徒討伐のため出張せる林警部の一行は孟山寧遠兩郡を偵察し德山郡に於て國分警部の一行と出會し協力搜査の結果十日同郡雞下面長にして暴徒の平民領首と稱する李達鳳及善射軍官と稱する玄祚錫の二名を逮捕し軍隊に引渡したり次で兩警部は暴徒の根據地たる龍島面大坪里及北倉を偵察し同所に於て高畑安州守備隊と連絡も十一日龍島面長にして財務官と稱する趙鉉鏡及忠義大將と稱する朴八彦の外雜丁七名を逮捕し取調ぶるに雜丁は脅迫を受け暴徒に加擔せるものなるを判明し嚴諭の上放還せり十二日北倉を發し尚搜査繼續中雞下面羅坪里に於て倡義大都督と稱する暴徒の首領朗銃を逮捕したり

參與官會議

既記の如く韓國官制制定に付て昨日午前九時より統監府參與官會議を開きたるか尚審議の必要あるを以て更に明午前九時より參與官會議を開く由

●裁判事務視察　香港裁判所長フラシヒツコット氏は去る十二日來京德壽宮皇城を拜觀し十四日には平理院の公判開始の模樣及び裁判所事務の視察をなし特に司法事務に就て取調を爲したり

●經濟協會開會　來る二十三日午後六時より日本人俱樂部に於て韓國經濟協會を開き曾根副統監を招待し其談話を乞ひ又市原第一銀行總支配人の殖民地に於ける金融機關に就てといふ演說ある筈なり

民團議會の決議

民團議會に於てかねて討議中なりし汚物掃除割及漢城病院の件は一昨夜八時半より最終の會議を開き出席者十一名欠席者九名にて原案及修正案共に左の如く議決せり

京城居留民團汚物掃除割賦課徵收規則委員會修正案

第一條　汚物掃除割は日税とし汚物掃除規則に定めたる區域内に居を構へ現住するもの又は現住者にあらずと雖其區域内に店舗又は營業場を有する者其他汚物塵芥を生ずべき業を營む者に賦課す

第二條　汚物掃除割は左の等級により此を賦課す

特別一等十二圓五十錢、特別二等十圓一等八圓、二等六圓、三等四圓、四等二圓五十錢、五等一圓七十錢、六等一圓二十錢、七等九十錢、八等五十錢、九等三十錢、十等二十錢

第三條　賦課等級は年齢五歳以上の居住人員及營業狀態を標準とし毎賦課期日現在に於て民長之を定む

第四條　汚物掃除割は毎月一日現在により賦課す

第五條　賦課期日後納税義務の發生又は消滅したるときは日割を以て賦課す但既納の税金は之を還付せす

第六條　汚物掃除割の納期は毎月民長之を定む

第七條　汚物掃除割の負擔に堪へずと認むる者は民長に於て免除することを得

第八條　當該吏員は必要に依り納税義務者に對し賦課標準に關する推問をなすことを得

第九條　前條の推問を拒み若しくは虛僞の申告をなしたる者は二十五圓以下の過料に處す

第十條　本規則は發布の日より之を施行す

第十一條　明治四十年度に屬する汚物掃除割は四十年十月十五日より之を徵收す

第二號議案（委員會修正案）

明治四十年京城居留民團規則第五號京城居留民團立漢城病院諸料金徵收規則左の通り改正せり

第二條中洗滌料の次に「往診料院長初回金十圓次回より一回五圓副院長初回金五圓次回より一回二圓入院患者特別診察料一回金二圓」を加へ入院料三等「一日金一圓五十錢」を「一日金一圓七十五錢」に改む

第五條中藥價の下に往診料外來患者特別診察料を加ふ

第七條左の通り改正す

第七條　本則に定めたる諸料金を納むるの資力なしと認められし者は民長に於て減免することを得

●昨日の委員會　豫報の如く昨日午後三時より仁川民役所に於て斗量場に干する委員會を開催せり

●宋農相の設宴　農商工部大臣秉宋畯氏は昨夜六時より同部吏員を花月に招待し饗宴を催したり

●宮廷伺候者　一昨日昌德宮に參内したる者は百二十六名内婦人三十七人にして其重なる者は左の如し

李載覺、李總理、趙法相、李軍相、李宮相

德壽宮に參候したる者は百二十六人内婦人二十三人にして重なるは義陽君、完興君、李宮相、李總理等なりし

●通譯生任命　福島善次氏は昨日理事廳通譯生（七級）に任し咸興支廳在勤を命せられたり

●戰闘射擊　步兵第五十一聯隊第七中隊は來る二十三日城洞北方高地附近に於て部隊戰闘射擊を施行する由

釜山防疫撤癈

釜山に於ける虎列剌病は一時猖獗を極めたるも官民協力防疫に從事したる結果暫時消滅に歸し本月八日以後一名の患者を出さゝるを以て曩きに特設したる海上の檢疫出張員事務所を撤癈し防疫に關する機關も悉く委員部に收集し尚後發を顧慮し引續き豫防中なり今初發以來の患者は總數百三十五名内日人九十四名韓人四十一名にして死亡は日本人六十四名韓人三十二名現在患者四名也

滿鐵と清商の懇和

滿鐵會社が一意野戰式を脱して其事務を營業的に改めることに努めつゝあるは人の知る所にして今や其業態一變しつゝあるも支那人側の荷主は未だ此會社の起意を解するに至らず今尚公然「鐵道衙門」の語を用ひて會社を目するに容易く近づくべからざる官府なりとし其托送貨物の如きも或は之を運送問屋に托して法外の口錢を貪られ或は結氷期を待ちて馬車便を借る等相互の不便不利少からざるものなるを以て今回會社にては目下豆出盛の時季を機とし特に重役を沿線の主要地に派遣し親しく支那商人と會して會社の目的と營業方針とを說明し大に意思の疏通を圖らんとし夫々準備中なりといふ

●平賀博士の大面目　世人も熟知せる如く今回の京城博覽會審査委員長平賀博士には從來水登浦工業傳習所の顧問として技能學術に於ては斯界中鏘々たるものなるが今回珍無類なる滑稽事を演出せしこそ近來笑止の至りなれ、开は此間水登浦に於て該工業傳習所の竈開きの祝ひを爲さんが爲め朝野の紳士を招待し萬人稠坐の間に一例として其良好なる實績を示さんものをと欲じ部下の技師及職工等を督して之が陶器の製造に着手し漸くにして今や竈の蓋を開かんとするの交に至りたるを以て來客は一同心私かに其成績の言ふ迄もなく良好にして立派なる品物の出來上るものならんと待ち構へ博士も亦此の腕前の程を見せ呉れんものをと頤で差圖をなしながら技師をして竈の蓋を開かせしに這は又如何に訝しや陶器は半燒の狀態にて現はれじより一同は開けて口惜しき玉手箱ハテ之が博士の腕前かと思はず嗟服せしかば博士も之はシクジッたと思ひしもナニ之が實際の燒なりと赤面しつゝ苦しき辨解せしとかなれば今は至つて大面目を施したるならんもマツ此程の腕前なれば將來も之が事業の發達は大に刮目して待つべきなり

仁川市況　不振と家賃値下

日露戰爭以來仁川は過度の膨脹を來し人口の如きも非常の激増を來した、所で今春三月の大火以來突拍子もない膨脹の反動として仁川の經濟界は非常な不振に陷り人口の如きも月々減少して二百名内外の減少を見つゝあるに至つた、當然の結果である、然るに仁川が以上不振の兆候か現はれぬ前に各大小資本家は吾れも〱と家屋を建築した而して又彼の大火燒跡の如きも僅々數月を經ずして悉く再建され其有樣は實に勇ましいもので不景氣の風が何處に吹くかといふ狀態であつた、何ぞ圖らん、一月經ち二月經たる昨今に至つて見れば之等の家屋の四分通りは空屋だ、それに彼の花開洞通りの如きも殆んど自滅の姿で何れも家賃に逐はれて片端より破產乃至は夜逃けをするといふ有樣である、獨り花開洞通りのみならず各國居留地以東公園地通りの如きも各商店共其日の商賣が立行かず何れも齊い吐息である、仁川の不景氣は大槪以上の如くだ、然るに獨り家賃はどーであるか、決して値下げをせぬ、一ヶ年前の繁榮時代と少しも變らぬ、否寧ろ各屋主は其家を持ち切れず却つて家賃の値上げをなして一時を持支ゆるの考へを持つて居るものもある、吾人は今家主に向つて家賃値下を强ひんとするものでない、只仁川の經濟機關たる商業會議所及民團理事者は果して今日の如き仁川の悲境を如何に觀察して居るかを聽かんと欲するものだ、土地擴張もよかろう、然し仁川が片ッ端から自滅しつゝある狀態になるを如何せん、吾人は信ずる、仁川の水道築港、土地擴張の諸問題の爲めに盡すは誠に結構であるが、より以上の大急務即ち差當り迫つて居る仁川の不景氣挽回策を講じて貰ひたいのだ、依つて第一着に先づ個人の經濟力と家賃との比例が今日の如く斯も不平均である以上は迚も其回復を望み得ない須らく家賃大直下げの議を立て貰ひたいのである

▲治外法權▼

伊藤統監殿には來月早々御歸朝なされるソウだ、京城の寒さが御老体にとつて障らぬとも限らぬから御轉地なされるのも必要かも知れぬ、併し何分御氣性の勝た御方で刺客位は恐くはないと仰せたこともある程だから寒氣位で御轉地あるのは嘸や心苦しく思召すであらう▲公の御歸朝は公の御都合、ソレはドウでもなさるが良いが暴徒の始末はドウなさるのである▲御遷宮が無事に濟んだのは事實である、大宮司の役目が首尾良く果されたのも事實である併し氏子の韓匪共が今に踏々して居るのも事實である、此悲しむべき事實を無視して宮司殿には御轉地とはあんまりきこゑませぬ次第である▲韓匪暴動の被害者は只に日韓人許りでない、居留米人の中杯にも隨分とある樣子である、稷山燒打の如きは米人被害の實例であつて或は國際問題にならねば良いが、▲伊藤統監には已に仁政を布かれ今後益々布かれんとして居るのである、其仁政は法律となり、法令となり、裁判制度となり官制となり、遷宮となりて現れて居るのである、今に憲法でも出來ればソレこそ仁政に一層の美觀を添ゆるのである▲公の仁政に就ては居留邦人は有難涙を溢して居る、居留外人も其商民たると宣敎師たるを問はず皆一樣に感泣して居る、而るに韓匪許りはドウも難有迷惑の樣である、尤も之は韓匪の頑迷の致すところである、▲政治は實際問題である、タトヘドンナ仁政でも治民に益のない事はだめである、韓匪事件に付て統監の一考を煩わすのである

(第三種郵便物認可) 明治四十年十一月二十日 京城新報 (水曜日) 第十號 (三)

一日一筆

▲奥様 オヤ又貴郎今晩も酔ッて居らッしやるよドウセ妾はお多福ですチヽ口惜しい

▲令孃 妾しや小説家が好きよ妾しの理想だワ二人して文を作ッたら嘸愉快だらうネ

▲お神 寒くッて不景氣で遣り切れない今年は宛で損だドラ熱燗で一杯引ッ掛けやう

▲町娘 美いちやん御覧よ役者が通るワオヤ憚りに這入ッたワ大層通じが好くッてヨ

▲内妻 早く籍に入れて頂戴な世間に肩身が狭いワ朝鮮女房の釜山別れは妾し厭やよ

▲小娘 サア飯事しませうチアラ口の悪いおさんが來たよ嫁さん事仕よッて厭な人ヨ

▲お三 奥さまモット高い枕ア御坐んすメーカ尻が高いもんですから頭が下りやんす

▲おッ嗅 今夜は鯛の吸物だから早く飯ッてチオイ〳〵大きな聲して近所に聞ねらア

本町座覗き

この狹い所に劇場が五つもあるといへば田舎者はおッたまげるであらうが何サ往つて見ると寄席なので是れで演劇するといふのは無理なる注文であるから假令如何なる名優が來たとて満足に藝を顯はすことの出來ぬは當然にて況んや……俳優が踏む所に是非の評を下さんは評せらるゝ役者より評する記者が却つて困るといふ方であるが見たが因果のお道でなく記者の役目として去る十七日の夜一寸覗いて眼に觸れた否眼に障つた二ッ三ッの小言を駢べて目やう

藝題は嫁ヶ淵、これは讀者は先刻御承知の昨年大阪毎日新聞懸賞に當撰せし小説、これを脚本として劇に登せしものにて既に新俳優の各座に於て演ぜられ他の公判芝居よりは撰を異にし流石に懸賞小説だけありて脚色も面白ければ何れも嘖々の高評を博せしをとゝて北村一座もまた泥硯の日本ヨボにやんやと言はせんと爰に替り藝題として出せしものならんさて予等の覗きたる時は已に第五幕目の矢上の宅にてお梨花が身の處置に窮し果て嫁ヶ淵に入水すべく覺悟を極め兄政八に遺書して家出する所なりし其のお梨花も定吉の倅米太郎も仕てなしの點からいへば可なりであつたがお梨花が雪中にも拘はらず跣足のまゝ驅出し又定吉の妻が跣足のまゝ藥取りに往つたなどは不注意であらう例令お梨花が死出の旅路に心急かるゝとはいへ狂氣して居るでもなく沈思熟慮して生きて此の世に恥を晒さんよりは一層潔く死を遂げんと決心せしものなれば途中に於て人に見咎しまるゝなどのことなきやうにすることこそ自然的ではあるまいか次に井原の邸に於て定吉の擧動は僅かに士百姓の振舞を受け取つたまた矢上が百姓に變り井原に談判する態度小學教員の面影をうつし殆んど間然する所なかりしが其の辨の冗長に失せし爲め觀客をして欠伸を催さしめたるは殘念なりし次に稲荷岡の場の書割が鎮守が森の場の背景と同じものであつたのは一寸目に障つたが道具方に他に代ぺき建具がなかりしなるべく夫れならば詮方なしとするも矢上が友人と袂別の條に於て如何に雪中とはいへ挨拶もせず外套を被り帽子を戴いたまゝで居るなどは瑕瑾であらう矢上が書訓の遠景より呼び起して喬木は風に折れ谿水激して岩を嚙むと引つかけた所は當意即妙の感ありしが火鉢の火香道傍に焚火が燃ねしざりて烟るの時趣向なかりしは遺憾なりし此の開幕中急に用務を生じ退場したるを以て全部を評する能はざるも北村一座は役者も揃うて居ることだけは保證する聞く毎夜大入を占むると左もありなん左もありぬべし

●南大門外の物騒 去る十七日夜のことゝか日本人某が南大門外鐵道管理局運輸課倉庫附近を通行の際一名の韓人現はれ出で突然某に向ひピストル二發まで放ちたれば某は之が爲め帽子と袖とを射抜かれたるのみ身体には何の損害を受けざりしが此の模様を見たる倉庫の監視者は直ちに飛び出し右の曲者を引捕へんとせしも山手の方に向ひ一目散に逃げ去り遂に捕ふるを得ざりしとは物騒千萬のことどもなり

●肥塚出張店開業 堺の造酒家肥塚氏は今回本町三丁目に出張店を開店したるを以て其披露の爲め明二十一日午後三時より花月樓に於て取引先及び各新聞社を招待し祝宴を開くといふ

●狂犬現はる 去る十七日の午後五時頃統監府の給仕山縣耀一(十六)が本町五丁目を通過の際同町雜貨商店小北商店の飼犬が突然飛びいつて脚部に嚙みつきたり

●強姦犯人の捕縛 南山の強姦騒ぎのあつたことは讀者の今尚ほ記憶に存する所ならんが時はこれ本年の九月十九日小公洞の飲食店初音方へ來りし一人の男は二圓九十錢の飲食を爲し金錢の持ち合せなしとて同店の中居井出シマ(十九)吉田タマ(三十)の兩名を馬に連れて自宅は南大門外なりと稱し南山に登り松林の内に歩を進むるより兩名の仲居は此の先に人家とてもなければと隨ひ行くことを拒みしかば右の男は其の所に座を構へシマの手を捕へて怪しき擧動に及べるよりタマは馳せ去つて人家近く驅けつけ大聲に救助を請ひたりシマは捕へられし手を振り放さんとせしに渠は暴力を以て強姦せんとしこれを遂げざるを以てナイフを以て數ヶ所に創傷を負はせシマは悲鳴をあげて叫びたり近傍の者ども此の兩名の只ならぬ呼聲に何事ならんと飛び出で、聲を便りに現場に至り見れば加害者は己に逃げ去りたるもシマは正氣を失ひて其の場に倒れ居るを助け起し醫師富久尾湊方に連れ行きて入院せしめ此の報に接し警察署にては數名の巡査を派遣して南山を取り卷き徹夜警戒して狩り立てたるも遂に其の影だも認めざりしが話頭轉して去る十三日の午後七時頃壽町一丁目の川津方に於て長崎縣北高來郡北諫早村の者にて目下壽町一丁目に居住する大工職山口末作(二十九)が縣名の同職人と共に酒宴を催し姫野某と口論を始め遂に鉋臺を投げつけて其の前角部へ負傷せしめ又ナイフを以て二ヶ所の輕傷を負はせ其の場を逐電して大和町一丁目の溝口市太郎方に潜伏し居るを其の筋の手に捕へられたり右末作は前記初音方の仲居を手込みに爲さんとせしことをも自白したりといへり

●新妓の顔出 オニヤと言つて現れ出でたるは茲三人の新猫オット新妓サテ先きなるは生れは定まりの廣島縣は廣島市西新町年が十五で名は中西エキヨ親は代々獵夫にあらぬドン百姓此れ迄同市の藝者屋廣仲方にて光子と名乗り三筋の稼業に喉と腕とを鳴らし居りしが今回チョッコン躍わりて當地に流れ來り眺めも飽かぬ花月樓より其名も照るなる光太と名乗りて左り褄を……▲次ぎは生れは同じく同縣同市の主水町名さへ江田ヤスとはよくも因みて名附けるよ年は十八の水揚時從來尾之道のさる藝者屋にて春江と稱して土地の客をあやつり居りしが此度此だび是れも花月より春子と名乗りて今晩はあり……定めて此の妓は鈴木主水の新内は上手なるべし▲後なるは兵庫縣は明石郡明石町本宿藤井ヌイ(廿四)年は少しく増し居れど坐席のコナシハ達者なもの、世辭で丸めて浮氣でコナする工合の手附なぞはなかなか旨いものだとの噂ダン〳〵仔細あつての事から今度新町の月下樓より二枚の鑑札で何れも昨日より打つて出でたり

●本町座本日の藝題 本町座に於ける北村劇は毎夜の大入にて仲々の好景氣を博しつゝあり例の如く本夜の藝題は一番目『ハグヂャルガル』二番目喜劇『嫉妬病』上中下にて役割は左の如し

羽柴文造(井上)百人長新五郎(新田)乳母おさと、秋山夫人梅子(西本)人夫源太郎丁稚長太(大島)蚊の八藏、下女しも(桂)足尾妻お岸、醫學士夏野涼齋(横山)取締仁太郎(吉岡)番頭喜七、郵便配達夫八田友一(谷)人夫託七(中澤)人夫君田藤造、法學士秋山(保岡)召使おみよ、下女お竹(小泉)江宮士嚴(青木)召使おとき(北山)鑛山監督足尾剛一、巡査青山文平(三木)江宮士令孃毬子、春野夫人百合子(三井)百人長太三郎(清水)番人與太八(森)日根良介、春野鶴二(北村)

紅筆日誌 見返り柳

十六日(晴天) 今日は朝から妹より來りしいぢらしき手紙を折返し操返しゝける程に胸は又悲みの一杯となりけるが、トモカクも父上と妹の許に手紙をしるさんもをどマツ妹に宛て下の如き意味にて認めにき

追々さむさに向ひませしが御兩親樣はじめ御身にはさして恙も無之御くらしなされ居る事と蔭ながら存じ居候姉さんもいたッて達者にて勤め大事に辛抱いたし居候につき御安心なされたく候サテ一昨日御身よりの手紙くはしく拜見いたし候驚き候尤も姉さんが國を出づるとき御身が姉さんはまことに〳〵夢かと許り打にこまく〳〵と物語りせし通り、お父さんは並より身体が弱く、ソレにお母さんといふは繼母にて性質もよろしからず、さぞや姉さんの留守中には年端も行かぬ御身に隨分無理難題をいひ果てはツラキ憂き目にも逢ふことの計られざらんも姉さんの歸る迄は何にも彼も浮世の習ひと諦めて辛抱しておぞなしく待ちたべと御身を抱き締め渡ながらに言ひ聽かせしとき御身は姉さんの胸に顏を當てシタ〳〵と泣きながら、わたしは何にも辛らくはありませんが只姉さんに別るゝが悲しくぞうぞ身体を大切にしてと言ひし彼のときの愁嘆ヨモや御身も忘れはせじと存候業の通り姉さんが此の廓に身を沈めてよりまだ一ヶ月も經つか經たぬ間にイミジク年端も行かぬ御身に姉さんのような憂き勤めをさすることゝなりしとは思へば思ふ程悲しさの身に泌みてモハヤ妾達二人は此の世に望みなく此も何かの因縁と思ふ外は無之候御身はマダ浮世の憂き辛らさを知らず一概に花魁といへば立派な衣物を着、綺麗な笄を揷すものと思ひ花魁になれば出世のやうに考へ居れど、心の奥は血の池地獄、イツレは言ふに言へれぬ仔細ありてのことにて姉さんは返つて御身がソノやうに思ひ居る心のアドケなさをいぢらしく存居候、しかし吉原の何樓かは知らねども約束のとゝのゐしもの〻やうなるがまとに〳〵に困りしことゝソレに禿女といへば年限の長きもの一人の花魁姐さんにかしづきて部屋の掃除や小間使、又ソレに其姐さんの氣立よろしくばトモカクもし意地惡るき人にてもあれば、ソレコソ長き月日の間難義な目に逢はずはならず、何んとか今の内に他に考へはなきやと案じ居候がトモカク一應父上母上へ姉さんより手紙差出すべく候

たみつ殿 姉より